

【百済地区】

「人・農地プラン」第1回地域懇談会概要

■ 開催日時等 令和3年12月9日 午後7時から 広陵町役場 大会議室

■ 参加者数 30人

■ 概要

1 「人・農地プラン」及びアンケート結果の説明

2 ワーキング・グループ（4班）による討議

◆地域の課題

担い手

- 担い手不足
- 担い手の高齢化
- 後継者がいなく、目処もたたなく、不安
- 農業ができる後継者が見当たらない。
- 退職年齢が延長になると更に難しい。
- 年々作業は厳しくなり、子も仕事が忙しく手伝えない。
- 指導してくれる人がいない。
- 営農組合による営農が必要ではないのか。
- 会社体系による営農がよいのではないのか。
- 外国人労働者の雇い入れ

農地・水

- 農地が湿田で田植えや稲刈りに苦勞する。
- 排水不良田
- 1区画の面積が小さく、拡大が必要
- 耕作地が点在し、移動時間など作業効率が悪い。
- 接道していない農地がある。
- 農道が狭く、4m以上に拡げる必要
- 農業用水が流入しづらい。
- 水路から水が田に逆流する。
- 水路の老朽化
- 水門は開門するが閉門しない。
- 水門のゴミ清掃
- 農業用水の管理が大変
- 用水路の堰操作が自分勝手に、水入れのルールが守れていない。
- 水を流入させたままで、管理をしない人がいる。

- 水入れのゲートが場所がわからない。
- 水門の管理者は曖昧
- 大和川分水の通水を9月までに延長
- 農地から宅地に転用する場合の転用決済金が高い。

営 農

- 米価は安く、主食米作りは利益がなく、赤字である。
- 農業で生計を立てられない。
- 需要と供給との関係、何をどれだけ作るか効率的な計画が必要
- ブランド野菜がなく、収入が上がらない。
- 売り先のバリエーションが少ない。
- 農機具の老朽化、更新が難しい。
- 農機具や資材が高く、また肥料大も高い。
- 農機具のメンテナンス費用は高く、ランニングコスト費用がかかる。
- 農機具のメンテナンスを一括できるシステムの構築
- 農機具使用時の道路等への土散乱
- 5haの農地を一人での作業は大変
- 一人農家では限界があり、手広くできない。
- 機械化が進まない。
- 農作業は3K（きつい、きたない、きけん）が問題である。
- 草刈りは大変で、草の処理が多い。
- 草刈りをしない、若しくは回数が少ない。
- 堤防の草刈りに苦勞する。
- ドローンによる薬剤散布の普及
- 吉野川分水の賦課金が高い。
- 農業は割に合わない。
- 農業に夢がない。
- 40年前の様に営農指導員がいない。
- 県の技師に聞いても満足な指示が返ってこない。
- ローカルルールが多く周知されていない。

環 境

- イノシシ、カラス、アライグマ、イタチによる被害
- 農道や水路への空き缶等ゴミの不法投棄

そ の 他

- 若者の意欲につながる政策
- 他の地域を視察し、良いところを学ぶ

◆現状と将来の農業者等

現 状

- 自作
- 家族
- 知人

将 来

- 後継者
- 子供・家族
- 認定農業者
- 地域の担い手
- 国による高賃金での雇用
- バイト（アプリで確保）
- 米作りに責任もってくれる青年
- ロボット
- 農協
- シルバー人材センター
- 集落営農組合
- 65歳以上の年金受給者で構成する農業法人
- 法人・企業（南都銀行）
- 後継者の誘引（教育、育成）
- 後継者、担い手へ継ぐシステム作り
- 半農半X計画で担い手づくり
- 維持管理だけする。
- やめるタイミングを見極める。
- 米価が上がれば担い手は現れる。